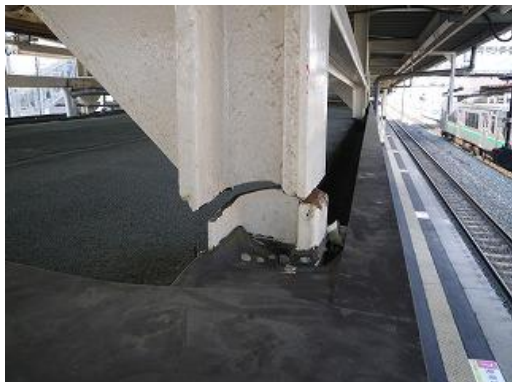


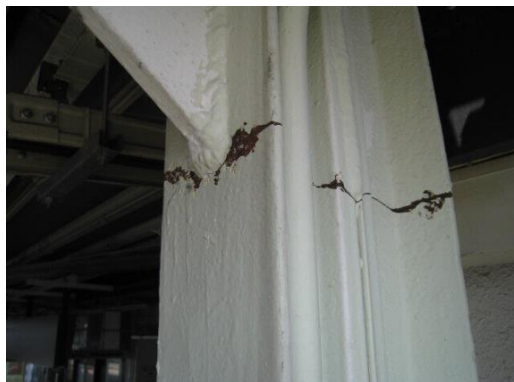
レール構造物を無溶接・乾式で補強、補修

開発経緯

古レールを柱や梁に使用した旅客上家は、過去の地震においてプレート等が取り付けられた溶接部近傍でレール材の破断が確認されています。従来の補強・補修工法では、鋼板巻き・モルタル充填・通しボルト等が必要であり、コスト増・工期の長期化の要因となっていました。そこで、無溶接で施工可能な取付金物『レールギプス』を開発しました。

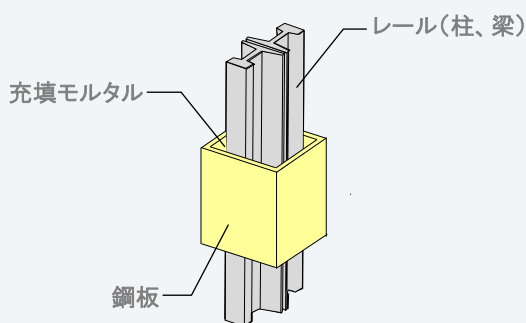


常磐線 小牛田駅
東日本大震災で柱(柱脚付近)破断

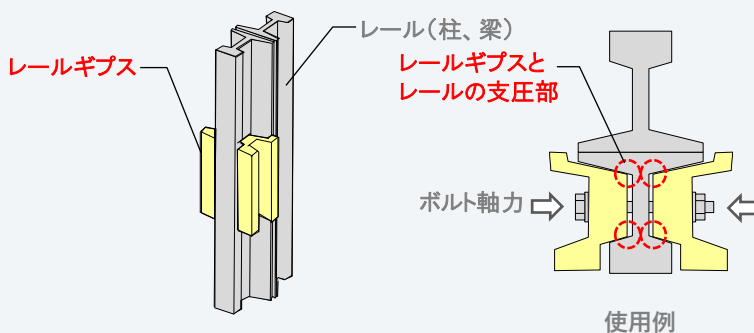


磐越西線 会津若松駅
東日本大震災で柱(接合部付近)破断

開発前



開発後



特長

- (1) 鋳鉄製によりレール形状にフィット
 - (2) 高力ボルトによる乾式の支圧接合
 - (3) 柱と梁の両方に使用可能
 - (4) 30kgと37kgレールに対応
- 工期短縮、コストダウンの実現



レールギプス



補強箇所(溶接部近傍)

適用箇所

採用実績

- JR東日本：土浦駅、水戸駅

知的財産権

- 特許第7029751号

お問い合わせ

お問い合わせ	JR東日本 構造技術センター 03-6878-0017(代表) JR東日本 千葉建築設備技術センター 043-284-6777(代表)
製造・販売	日之出水道機器 03-5549-1586